

変身ヒロインを呼び出せるデリヘルアプリ

「潔癖症ヒロインをどこでもおまんこ嬢に変態調教」

プロローグ

「…っく」

「デリヘルアプリでご指名頂きました龍槍神機フロスト・ジーン、鷹梨燐です。ご指名頂いたお客様で、問題ない、ですね？」

「…はい、かしこまりました」

「この度は、基本コースを選択、ありがとうございます」

「変身ヒロインデリバリーヘルスサービスの規約に沿ってのご利用をお願いいたします。プレイの内容に沿わない暴力行為はNGとなります。またデリヘルアプリにより、ルールに沿う行為などについては絶対服従、となっております」

「また…もちろんのことですが、こちらから暴力行為を行うことはありません、せん…たとえばあなたが組織の戦闘員であっても、私と戦った敵だったとしても、です。なので、私たちの間で暴力が発生することはない、という認識でお願いします」

「…っくっ、ううっ」

「失礼、しました…ではオプションの方の説明に入らせて頂きます」

「こ、今回の催眠オプションにつきましては、感度良好を選択していただきましたので…
つく、ど、どんなプレイでも、一瞬であへあへしちゃうクソ雑魚ボディに調整、して、お
ります…」

「…なんて、卑劣な、こんな、こんな…くっ、ダメっ…体が、勝手に…っ！ …戦闘員で
あるアナタとは何度も相対した間柄ですが、今の私には抵抗する方法が、ありません…そ
もそも、敵対していた私を指名する意味が、私には分かっていないのですが…」

「アナタを何度も打倒した私に、アナタ自身が恨みを持っていたとしても…先程も申し上
げましたが暴力行為を働くことはNGです、そのルールは必ず遵守願います。万が一にで
も暴力行為が認められた場合は、コースの途中であっても即刻終了し、帰還させていただ
きます」

「…こんなものに縛られていなければ、すぐにでも…くっ！ ううっ！ はあ、はあ、は
あ…とにかく……体の自由は奪えても…心まではアナタに屈することはっ、ないんだか
ら！」

シーン1 自宅で…

「なんて不潔な部屋……」

「お、男の人の部屋なんて初めて入りましたっ……作法なんて知りません!?」

「え、変身ですか……?」

「いいんですね? わかりました……油断、したようね……っ!」

「機槍天回、龍槍神機! フロスト・ジーン! 出撃よ!」

「……っ! くうっ、な、なんで? 攻撃、しようとするど、体が動かなくなるなんて……」

「どうして? 変身したのに……洗脳が解けないなんてこと、ありえないのに……っ! うう

……戦闘員なんかには、こんな屈辱を……くっ、嘘よ……」

「ああ……嫌あ……触ら、ないでえ……くっ、ううっ……はあ……ううっ……抵抗、できない……き、気
持ち悪いだけ、っよ……はあ……はあ……うっ……ううっ……くっ……んっ……あっ……うっぐっ……んっ……

はあ……うう……くっ、ううっ……」

「胸、ばかり……触らないで……ひぐっ……ううっ……不潔、です……」

「ああっ……何で? こんなに……変な、感覚が……止まらないの……? うっ、ううっ……はあ、

はあ、はあ……んっ、んっ、あっ、ううっ……んっ! んんうっ!」

「くっ、あっ、嫌っ…」

「うあっ、ダメっ…押しの手ようと、すると…体、言うこと聞かなくなって…ううっ」

「戦闘員くらい…変身したら、力負けなんて、しないのに…ううっ、んっ、んんあっ…」

うぐっ…はあっ、はあっ、はあっ…んっ…あっ、いやっ…そこっ、ダメっ、ダメえ

っ…んんっ…乳首っ、乳首いっ、止めてっ」

「ひうっ！ あっ、脚いっ、さわら、ない、でえっ…はあ、はあ…ただ、触られてる、だ

け、なのにいっ、ひいっ、んんっ」

「すごく、ゾワゾワするの、止まらなくなってるっ…ううっ！」

「絶対、普通なら、あり得ない、のに…ひっ、いっっ！」

「卑劣な悪の組織のっ…んあっ、っく、催眠洗脳なんかに、負け、あっ、あうっ、んん

っ！ んんっ！ あっ、いやっ、やめっ、んっ、んんっ！ これぐらい…耐えてっ、絶

対諦めちゃ…ひうっ!？」

「感じてなんてっ、ただくすぐっただけ、です…こんな、こんな…私は龍槍神機、

こんなことぐらいでっ、ひうっ、んんっ！」

「戦闘員なんかにつ…くうっ、体の感覚がっ…はあ、はあ気持ち悪い、不潔、不潔で

すっ…絶対っ、屈しませんっ…あっ、あっ…んっ！…んんっ！…あっ、あああ

「♡」

「はあ、はあ………終わり？ 手を止めて…ひっ！」

「あ、アナタっ…なんでそんなに大きくして…あっ、嫌っ、不潔ですっ！ 近づけないでっ！ うぐっ……どうしてっ…嫌なのに、体が動かないのっ…ううっ…くうっ…経験人数、ですって…？ そんなもの、無いに決まっています」

「ち…男性器だって、こんなモノ、み、見たこと無い、です…」

「お、オナニーのとき、どうしてるか？ ですって？ なんで、そんなことアナタに答えないと…うっ、ううっ…」

「オナニーのときは…その、妄想でしてます…回数は、週に一回くらい、です…ううっ…ううううっ…っ！ こんな恥ずかしめを受けるなんてっ…うぐっ、こんなの…狂ってる…くっ、ううっ！」

「変身が、意味がない、だなんて…ありえ、ないいいっ…くうう…っ！ はあ、はあ、はあ…こんなこと、理解できません。不潔で、人をモノみたいにつ…ダメに、決まっています…くっ！」

「…手で？ ええ！？ 手でその不潔なモノを！？ 嫌！？ あ、あっ……男性器を手で握って……そんな不潔な行為っ、嫌なのに……手がっ、ああ！？」

「っひ…熱いつ…くっ、ううっ…はあ、はあ、はあ…んっ…ああ…こんなもの…私が、触ることなんて…絶対、あり得ないのに…ううっ、体が、勝手に…くっ、んんっ」

「はあ…はあ…はあ…ああ、手の、中でっ…ううっ、どんどん硬くなって、きてる…はあ、はあ、はあ…うう、皮がぶにぶにして硬いの柔らかくて、ドクドク、ドクドク、脈打って、気持ち悪い……な、何に使うものかぐらい、知って……ふ、不潔です！」

「はあ、はあ、はあ…っ！ い、嫌っ…ありえません」

「私は、こんなこと…望んでしたい、訳じゃ…くっ…ううっ…」

嫌なのにつ…手が…離れない…体がっ…言うこと、聞いてくれない、なんて…くっ…はあ、はあ、はあ…ううっ、くっ、あっ…嫌っ…もうっ、こんなものっ…不潔、なのにつ…うっ、ううっ！」

「大きくなってきてる…それに硬くなって…私の手でシゴかれて、感じてるんですか？
はあはあ、うう…目が離せない…なんて…不潔なのに…視界に入るのも、嫌なのに…はあ…はあ…はあ…くっ…ああ…熱がどんどん伝わって…私の手も熱くなってきてる…それに…あっ、ああ…先っぽから出てきてる、もので…はあはあ、ネバネバに…なって…くっ…ううっ…」

「嫌あ…はあ、はあ、はあ、うっ、くうっ…っ！」

「こんなこと風紀に反しています…ありえない…ありえないのに…くっ…手が、止まってくれない…なんて…ふう、ふう…ふぁ…なんて匂い…」

「え、ゴム？ ひ、避妊具ぐらい…生でなんてダメです！？ 不潔なっ！？ コ、コンドームの付け方ぐらい…包装を破って…勃起した男性器の先端に、突起していない方を合わせて、空気が、入らないように…気をつけながら根本まで一気に…ゴムで覆って…」

「入れる！？ そんな、ことっ！ 嫌に決まって…あ、あっ…あれ、でもそのために来た、っく、おかしいのに、頭の中まで…嫌っ…ああ！？」

「はああっ、はあ…こんな格好でなんで、不潔な男の人のベッドで足を開いて、ま、前の装甲を解除しちゃったらダメなのに…不潔なそれを、い、入れるの？ あっ、あっ、止めっ…くっ…ううっ…男性器を擦り付けるのはっ、ダメっ…うっ、くうっ…」

「濡らさないと痛いって、んあっ…そんな、そんな…んっ、感じてなんてっ、濡れるのは…せ、生理現象、ですっ…あ、ああ…ダメっ、お、押し広げて…っく、それでも私はっ」

「んんっ！ あっぐっ！ っ！ 入って、はあ…はあ…中の感触が、こんななの…はあっ、はあ…ううっ…」

「不潔…こんなこと、許されるはずが…んんっ！ あっ、ううっ…はあ、はあ、はあ…ううっ！この程度の、ものなら…耐えて、みせ…くうんっ！」

「あっ、あっ、あうっ…んんっ！ はあ、はあ、はあ、あっ…ううっ！♡」

「んっ…ああ…なにつ、これえっ…はあはあ、はあはあ、私の体…変に、なつてっ…んんっ…はあ、はあ…んっ…あっ…あうっ…あっ、ああっ…んんっ！」

「だ、ダメっ…今っ、おっぱいっ、触られるとっ…んんんんんっ！♡ あっ！ 嫌っ！ 触らないでっ！ 不潔です！ いやらしい手つきで…」

「ひうっ、中で動いてっ…何がって、あ、アナタの…おちんちん！？ そんな不潔な言い方…っく、また入ってきたあ！？ 耐え、耐えなきゃ…あ、あっ…私は龍槍神機なんだから…こんな卑劣なことに負けちゃっ！？」

「あ、あ、あああ…動きが早くっ！？ ……くうっ…体中おかしいっ…不潔ですっ！ ダメっ不潔なのにつ…あっ、あっ、あっ、あああっ！ あんっ、あっ、あうんっ、あっあっあっ、ああっ！ んあっ！」

「止めてっ、止めっ…んんっ！ そんなっ、動かないでっ、んんんっ！♡」

「ああっ！ あっ！ あああっ！♡ ありえませんっ！ ありえなっ、いいいっ！♡ 私、淫乱なんかじゃっ、催眠洗脳のせいっ…おかしくっ、なつてっ、るううっ！！ んんんっ！」

「あっ！ あっ！ あっ！ ああっ！ なにかっ、くるっ…くうんっ！♡ きちやうっ、うっ、ううっ！」

「うあっ！ あああああああああああっつっ！…！♡♡」

「うっぐっ！ あっ、ああっ…はあ、はあ、はっ…んっ！ んんんっ！」

「あっ！ おちんっ、ちん…っ！ くっ、うううっ！ ああっ！ あうっ！♡ なっ、中

あっ…どくどくっ、どくどくって…んんっ、はあはあ、はあはあ…」

「熱い、のがっ…んっ…はあ…はあ…はあ…はあ…はあ…」

「あうんっ！♡ くっ…はあ、はあ、はあ…男の人ってこんなに、だ、出しちゃうんですね…くっ、うう…」

「はあ、はあ、はあ、はあ…不潔、です…はあ、はあ…うう…そんなもの、見せつけないでください…はあ、ふう、ふう…うう…さあ、もう満足、しましたよね？ だったら…

もう…」

「…もう一度、ですか？ ……っく、なんと汚されても、私は…」

「ひうっ！♡ あっ、アナタ…何を…？ んんっ！ 感度、上昇？ 悪の組織らしく卑劣で不潔な…」

「つく、体が……なんてひどい匂い、これ精液の匂い……こんな不潔な匂い……べとべとで鼻の奥まで犯されるみたいに♡ はぁ…はぁ、はぁ…コ、コンドームつけたらだいぶ収まった……な、なれてなんていませんっ!」

「さ、さっさとすればいいでしょう……つく、絶対にあきらめない……!」

「あっ……あっ、あぁっ! 入ってっ…んんんっ! はぁはぁ、はぁはぁ、うっ、うっくっ、んんっ! あっ、あぁっ! 挿入された、だけなのに…さっきと、全然、違う…っ! んんんっ!」

「あっ、あっ、あぁっ! 嫌…いやなのに…くっ、体が、勝手にっ…んんっ、あぁっ! あっ、あうっ…んっ、あっ、あっ、あんっ、くっ…あっ、あんっ、あんっ、あんうっ!」

「はぁはぁ、はぁはぁ、声え…勝手にっ、出てるう…くっ、ううっ! んんっ!」

「さっきよりも、敏感にっ、なってる、せいでっ…ひぐっ♡ ううっ、んっ! あぁっ! 無理やりっ、気持ちよくされてっ、んんんっ! あっ!♡ あっ、あぁっ! あぁぁっ!

「♡」

「こんなっ、やり方でえ…はぁはぁ、私は…心まで、屈することは、ないんっ、だからあっ…んんっ♡ あっ! あぁっ! あっ、あっ、あうっ、んっ! んんぐうっ! ひぐっ、んうあっ!♡」

「ひっ、卑怯で卑劣で、不潔なっ……絶対にっ、屈しないっ……負ける、もんかあっ……んん
ううっ！♡」

「ひぐうっ！♡ あっ！ ああっ！ んあっ！ あっ、そこっ、ダメえっ！ いぎっ
んっ、おおっ♡ クリっ、触るのっ、ダメっ、ダメえっ！♡ ひっ、ひうっ！♡ んうあ
っ！♡」

「敏感にっ、なってるっ、からっ！♡ やめてっ、やめっ、やめてっ♡ んんあっ！♡
あああっ！！♡ こんなのっ、無理っ、無理っ♡ 無理いっ♡ んんうっ！！♡」

「あっ♡ ああっ！♡ あうっ、んんんううああっ！！♡♡」

「あうっ！♡ あっ、嫌っ、体っ♡ 壊れるっ♡ 壊れっ、ちやうううっ！♡ んんっ！
♡ あっ！ あああっ！♡ 止めてっ！♡ 気持ちいいのっ、もうっ、嫌っ、いやああ
っ！♡」

「ダメっ♡ 体あっ♡ ビクビクっ♡ 跳ねるのっ♡ とまんないっ♡ 止まんないから
ああっ！！♡ んぐうっ！♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ イったっ♡ イったからっ♡
んんんっ！♡」

「あうっ！♡ んんうっ！♡ んおっ♡ おうっ！♡ んんんんっ！！！♡ やめてっ♡
今っ、クリいっ♡ イじったらっ……んんっ！ あっぐっ♡ ううああっ！！！♡」

「無理っ、無理っ、無理いっ！！！！♡ イってるっ、イってるっばあっ！♡♡」

「んんううあああああつっ！……！♡♡♡」

「こんなのでっ♡ 私ほっ♡ 絶対につ♡ 心まではっ♡ 屈したりっ♡ しないっ♡
しない、からあつっ！♡ んっぐうっ！♡ ああっ！♡ またっ♡ 大きいのっ♡ くる
っ♡ くるうっ！♡」

「もうっ…絶対っ♡ 体あつ！ 変なおつ！ ひぐうっ！♡ ありえないっ♡ ありえ
ないのにっ！♡ こんなのだ、気持ち良すぎてっ♡ 頭あ、おかしく、なるうっ！♡」

「んんんううっ！♡ あつ！♡ あうあつ！ んんあつ！ あつ！ ああああつ！……！」

「ひぐっ♡ あつ！……！♡ ひうんっ♡ ああああああああああつっ

っ♡♡♡……！……！

「あうっ♡ あっ♡ ああっ……はあっ、はあっ、はあっ、はあっ……んっ♡」

「はあ、はあ、はあ……んんっ……ああっ、あひっ♡ ひんっ……っ！♡ はあ、はあ、はあ……」

「……この度はあ、ご利用、ありがとうございます、……ごいまひたあ♡ はあはあ、はあはあ……んっ

♡ 口が勝手に………こんなことまで催眠洗脳で……！？」

「またの、ご利用を、心より、お待ちしております…はあ、はあ、はあ…くっ…」

「こんな操られて、自由が効かないとしても…私は、心までは、屈したりしないんだから

…はあ、はあ、うっ…」